

多くの高校生が気軽にボランティアに参加できる環境づくりをするには

三浦珠子

1. 課題の設定

私は、「多くの高校生が気軽にボランティアに参加するには」というテーマで総合的な探究を進めている。私がこのテーマを選んだ理由は2つある。第1に、もともと中学3年生の頃から定期的にボランティア活動をしていたということもあり、ボランティアが好きで、ボランティアについてなら、自分が楽しんで活動を進めることができるのではないかと考えたからである。第2に、私は2024年の夏に日本次世代リーダー養成塾という日本全国の意識ある若者が集まってさまざまな講義を受けたり、多様性についてディスカッションをしたりするサマースクールに参加した。津軽地方から参加した高校生は私1人だったので、他の地域の高校生に埋もれてはならないと津軽弁満載でコミュニケーションを取っていたところ、人生で初めて、コンプレックスであった方言を「可愛い」と言ってもらえた。そのことがきっかけで自分の弘前愛に火がつき、弘前の高校生が輝ける環境づくりをしたいと考えるようになった。これらより、今回のテーマで進めていこうと決意した。

2. イベント開催について

まず、私は「高校生である私がボランティアについての情報発信をすれば、若者のボランティアの実働が増えるのではないか」という仮説を立てた。私は何となく楽しそうという理由で、弘前市の高校生が気軽にボランティア活動できる環境をつくるために、イベントを開催しようと考えていた。しかし、私は何となくイベント開催を夢見ていただけだったので、一体何から進めて良いかが分からなかった。そこで、私は市立図書館に行き、地域活性化を高校生が主体となって取り組むような内容の本や、地域創生に関する本を片っ端から読み漁った。そこで、私は一冊の本に出会った。こばやしたけし『地方は活性化するか否か』（Gakken、2015年）である。

この本は高校生が仲間と協力しながら、地域活性化について学んでいくという内容であった。この中に「イベント」について触れられたところがあった。1回きりのイベントでは、地域活性化ではなく、地域賑やかしにしかならないと述べられており、私の胸に深く突き刺さった。私ができるイベントは、高校生ということもあり、せいぜい1回である。その1回は何となくイベントは楽しいからという独りよがりな思いによるものであった。ノリで開催しようとしているものに地域活性化は任せられない。そんなことを言われている気がした。継続的なイベントだからこそ、人々からの信頼を集めることができるし、人と人とのつながりが生まれるのである。私はこの一文から、イベント開催に重点を置くのではなく、ボランティア活動にシフトして計画を進めようと考えた。

3. ボランティア活動のための環境づくり

私はここで自分がどのような方向を向いて進めばいいかを明確にするため、弘前市を拠点に活動している多くの方々のところに話を聞きに行った。その中で、演劇ユニットの広報担当、太田歩さんに「まずは仲間集めをするといいよ！」と教えていただいたので、志を一緒にしてボランティア活動の基盤づくりをするため、学校内で「ボランティア実行委員会」を結成した。最初は、2、3人集めることを目標にしていたが、5人も賛同して集まってくれた。そして、ボランティア団体としての信頼を獲得すべく、ひろさきボランティアセンターに通い、正式な団体登録の申請をしたり、今後の方向性についてお話を聞かせていただいたりしている。

私はいろいろな活動に奮闘していくうちに、先述の仮説の答えにたどり着いた。私には、若者が気軽にボランティアに参加できる環境をつくるという目的がある。それを達成するために、「ボランティア実行委員会」のみんなと地域について調べ、問題点を議論するなどしている。そして、環境づくりのための「手段」として、弘前市に需要があるイベントを開催しようと考えている。また、Instagram も開設し、ボランティアの情報発信や活動を精力的に行なっている方や受け入れ態勢が整っている団体さんへのインタビューを掲載していこうと考えている。

4. 消費者フォーラムに参加して

今回、消費者フォーラム in HIROSAKI で大勢の方々の前で発表させていただき、自分の経験を話すことで自分の中で整理がつき、これから私がどんな方向に向かって活動を進めていけばいいかが明確となったと考えている。発表後に弘前大学のサークルの方からお声がけしてもらったこともあり、イベント開催に希望が持てるようになってきた。実行委員会のみんながついてきて良かったと思えるような団体にしていく所存だ。

また、以前、弘前市長に表敬にうかがった際に「イベント開催を必ず実行させる」と意気揚々と宣言してしまったので、これから私のことを信じて応援してくださった方々に少しずつ恩返ししていこうと考えている。一番の恩返しは、私が楽しく活動してボランティア活動の普及をしていく姿を見せ続けることだと考えているので、イベントを開催できるような体制づくりに全力を尽くしていきたい。

消費者フォーラム in HIROSAKI で私が発表するにあたって協力してくださった方々、先生、仲間たち、すべての方に感謝して、今後の総合的な探究も頑張っていきたい。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

(三浦珠子 弘前中央高等学校)